

【所 感】

長崎市議会議員 岩永敏博

福州市・上海市 視察報告

(福州市)

人口 680 万人を抱え、中国東南部の中心、福建省の省都でもある本市は経済・政治・文化の中心を成していると改めて実感した。国家政策としても近年は、台湾との交流が盛んにおこなわれており、好景気を背景に都市基盤の整備が急速に進んでいる。バス車窓から見るだけでも、地下鉄建設や大型商業地の再開発、中心部のみならず周辺地区においても高層マンションの建設ラッシュがいたるところで目に飛び込んできた。

今回の訪問は、友好都市締結 35 周年の交流事業が目的であり、市長表敬のみならず、水産交流の協定締結もあった。

上下水道事業の視察では、生命の根幹ともいえる「水」のインフラ整備にかける発展する大都市の意気込みは相当なものであり、実際に見聞できたことは中国の地方都市の生活文化に対する、これまでの私の偏見を覆す大きな材料となった。特に近代的に整備された下水処理施設は、その広大な土地を有効利用し、民間の若い優秀な人材登用による運営は、年功序列の縛りが解けないわが国と違い、開放的で民主的なビジネス文化を垣間見ることができた。

施設内容については、国との一元化された情報共有システムなど目を見張るものもあったが、設備投資が国の威信に比例するかのごとく高いのは一目瞭然で、我が国のインフラ整備と経済状況を鑑みれば言うに及ばない。

海外貿易の拠点として整備が進む港湾施設においても、その広大な土地と施設は類を示すものもなく計り知れない。ただ、自由貿易を推進する中で拠点となる特区での動きは、今後の日中間の貿易において注視する必要があると認識した。

(上海市)

長崎鮮魚の流通拠点となる企業を訪問し、現状での中国国内での鮮魚の需要と「長崎のさかな」のポテンシャルの高さを改めて認識した。本年で長崎との流通開始後 10 年となり今後の拡大する輸出高に期待したい。

訪問翌日とその記念式典が開催されると聞き、本市からも長崎魚市や漁連関係者が多数出席する中、我が訪問団も日程調整ができなかったものかと悔やまれる。

以上、視察概要についての感想だが、福建省・福州市との長い交流の歴史がある長崎市にとって、今後もより発展的な友好的交流関係が望まれるものの、人口減少問題

に苦しみ、経済の落ち込みに直面する本市との交流は、もはやこれまでの立ち位置の存続は危ぶまれ、リーダーシップを持っていかれるのではないかと危惧する一面もあることを忘れてはならない。

経済・文化両面からの今後の両国・両都市の交流拡大による winwin の関係が保たれるよう期待し、私の視察報告とする。